

「論理・表現Ⅱ」単元ごとの指導と評価の計画

愛知県立時習館高等学校

教諭 清水 翼

1 期 間

〈省略〉

2 学 級

〈省略〉

3 学級観

〈省略〉

4 教 材

〈省略〉

5 単元の目標

英語を日本の公用語にすべきであるという議論について述べられた記事を読み、概要や要点を理解するとともに、その内容や言語材料を活用して自分の考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合うことができる。

6 関係する領域別目標（学年のCAN-DO）

読むこと	一定の背景知識のある国内外の社会的・時事的なトピックについて、語彙の推測を伴いながら、450語程度の英文の概要や主張、論点などの情報を適切に理解することができる。
話すこと [やり取り]	一定の背景知識のある国内外の社会的・時事的なトピックについて、15分程度の Talking Session において、お互いの意見を比較して、一致点や相違点などを明確にしながら、積極的に会話に参加し、協調的に継続することができる。
書くこと	一定の背景知識のある国内外の社会的・時事的なトピックについて、基本的なフォーマットを踏襲して、120 から 150 語程度の英語で、自分の考えを理由、具体例を用いて書くことができる。

7 単元の評価規準（領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み取るために必要な語彙を理解している。 公用語や英語教育に関する文章を読み取る技能を身に付けている。 	自分の考えを発表するために、公用語や英語教育に関する説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分の考えを発表するために、公用語や英語教育に関する説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"> 情報や考えを述べるために必要な語彙や対立を表す表現等を理解している。 公用語や英語教育についての情報や考えを理由とともに話 	相手に自分の考えをよく理解してもらえるように、公用語や英語教育について読んだことを活用しながら、相手の発言を踏まえたやり取りを行っている。	/

	<p>■単元内容の背景となる知識を活性化する。</p> <p>①単元の目標（異なる二つの立場について述べられた文章を要約した上で、自分の考えを伝えることができる）と本時の目標を確認し、自分の目標を設定する。</p> <p>②公用語に関する文章を読み、質問に答える。</p> <p>③モデル文を通して言語材料（副詞の働きをする語句）を習得し、それを提示された文脈の中で活用する。</p> <p>④英語を含む外国語の学習に関する三つの問いについて、自分の解答をまとめる。</p> <p>⑤目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p>				<p>しているか。</p> <p>【思】文章の概要や要点を適切に捉えているか。</p> <p>【態】積極的に自分の意見を表現しようとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p>
2	<p>■英語を始めとした外国語を学ぶことの意義について、他者の意見を通して考える。</p> <p>①本時の目標を確認し、自分の目標を設定する。</p> <p>②前時の三つの問いに対する解答について、理由とともにペアで話し合う。その際、聞き手は疑問点や更に聞きたいことなどを質問する。</p> <p>③英語を学ぶ理由について、それをまとめた表を見ながら、②で話し合ったこと等を踏まえて、60語程度のパラグラフにまとめる。その際、クラスメートに尋ねたいこと及び確認したいことを簡単に書く。</p> <p>④③で書いたパラグラフを、グループ内で読み合う。その際、書き手が記した、尋ねたい・確認したいことに対するコメントを書く。</p> <p>⑤目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p>			○	<p>【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】論理性に注意して相手に伝えているか。活動内容を踏まえたパラグラフを書くことができているか。</p> <p>○【態】会話が継続するよう工夫しているか。活動内容を踏まえたパラグラフを書こうとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p>
3	<p>■英語を日本の公用語にすることについて、賛否それぞれの立場から考えられる理由を、要約文の作成を通して理解する。</p> <p>①本時の目標を確認し、自分の目標を設定する。</p> <p>②英文の2種類の読み方について述べられた文章を読み、キーワード・キーフレーズと主題文、結論の文を指摘する。またそれぞれの読み方の要点をまとめる。</p> <p>③英語を日本の公用語にすることについて述べられた文章を読み、キーワード・キーフレーズと主題文、結論の文を指摘する。また賛成と反</p>			○	<p>【知】対比を示す語句や表現を理解しているか。要約に必要な語句や表現を理解しているか。</p> <p>○【思】文章の概要や要点を適切に捉えているか。自分の言葉で要約することができているか。</p> <p>○【態】自分の言葉で要約しようとしているか。</p> <p>○ワークシート</p>

	<p>対の二つの立場の要点をまとめる。その際、できるだけ自分の言葉で説明することを心がける。記した内容については、ペアで共有する。</p> <p>④上記の活動を踏まえ、文章の内容を60語程度のパラグラフに要約する。その際、できるだけ自分の言葉で説明することを心がける。その際、クラスメートに尋ねたいこと及び確認したいことを簡単に書く。</p> <p>⑤目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p>					<p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p> <p>○</p>
4	<p>■英語を日本の公用語にすることの是非について、賛否それぞれの立場から考えられる理由を自分の言葉で表現し、共有する。</p> <p>①本時の目標を確認し、自分の目標を設定する。</p> <p>②前時に書いた要約を、グループ内で読み合う。その際、書き手が記した、尋ねたいこと及び確認したいことに対するコメントを書く。</p> <p>③英語を日本の公用語にすることの是非について、賛成と反対の立場のそれぞれについて考えられる理由を、②で読んだ他の生徒の文章の内容を踏まえて、できるだけ多く書く。</p> <p>④前時とは異なるペアで、賛成と反対の立場に分かれ、それぞれ考えた理由を共有する。適宜ペアを変え、多様な意見に触れる。</p> <p>⑤目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p>		○			<p>【知】適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】賛成と反対のそれぞれの立場を踏まえ、また論理性に注意して書いているか。自分の言葉で説明することができているか。</p> <p>○【態】自分の言葉で説明しようとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p>
5	<p>■英語を日本の公用語にすることの是非について、マイクロディベートを行う。</p> <p>①本時の目標を確認し、自分の目標を設定する。マイクロディベートについて説明する。</p> <p>②3人一組となり、賛成・反対・ジャッジの三つの役割に分かれてマイクロディベートを行う。前時の活動で考えたさまざまな理由の中から、相手の発言の内容に応じて適切な理由を挙げるよう心がける。マイクロディベートは、役割とグループを変えながら、数回行う。</p> <p>③②を踏まえ、自分の意見とその理由を80語程度のパラグラフに要約する。その際、クラスメートに尋ねたい・確認したいことを簡単に書く。</p>		○			<p>【知】即興性が求められる中であって、適切な語句や表現を使用しているか。</p> <p>【思】相手の発言の内容を踏まえた返答ができているか。</p> <p>【態】意見陳述における自己の課題を的確に捉え、改善策を考えようとしているか。</p> <p>○ワークシート</p> <p>○活動の観察</p> <p>○振り返りシート</p>

	<p>④③で書いたパラグラフを、グループ内で読み合う。その際、書き手が記した、尋ねたい・確認したいことに対するコメントを書く。</p> <p>⑤目標の達成状況を振り返り、課題を明確にする。</p> <p>⑥次時に行うパフォーマンステストについて説明し、目標を設定する。</p>		○			
6	<p>パフォーマンステスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育を開始する時期について、異なる二つの立場から述べられた文章を読み、双方の主張を要約した上で、自分はどちらの意見に賛成するか、理由とともに書く。 ・前時までの学習を踏まえ、最初に目標を設定する。パフォーマンステスト後、その目標の達成状況を振り返り、今後の課題を明確にする。 		知 思 態			<p>※採点の基準等は「8 パフォーマンステスト」を参照。</p> <p>知 思 態</p>
後 日	定期考査		知 思	知 思		知 思

実践報告

1 「学びに向かう力」の把握方法について

授業内の言語活動について振り返りシートへ記録する活動を行った。印刷用のMicrosoft Word 文書（資料1）とタブレット端末に入力するためのMicrosoft Excel ワークシート（資料2）の2種類を用意した。生徒にはタブレット端末が貸与されているが、本校では学習支援に特化したソフトウェアを使用しておらず、記録を入力することに不慣れな点を考慮して、紙媒体のシートも併用する形とした。

2 指導計画について

教科書に示された言語活動は3時限目の要約文の作成までであったが、トピックに対する自らの意見を構築しながら、その多様性を学ぶ機会とするためマイクロディベートを取り入れた。ディベート形式の言語活動は比較的大人数で行われることが多いが、この活動では生徒一人一人の発話量を確保することができる。なお、このマイクロディベートは、名古屋市立向陽高等学校の取組を参考にしている。

当初は5時間配当を予定していたが、後述の「4 ライティング指導について」に示す、生徒相互でのフィードバックを重視したことから、6時間を要した。従って「単元ごとの指導と評価の計画」は6時間配当のものに修正した。

3 授業への取組に見られる生徒の変容について

各活動に対して振り返りシートに目標を記入することを通して、目標を達成しようとする積極的な姿勢を見て取ることができた。これまでは日常的に振り返りシートを記入したり、目標と反省を可視化したりすることがなかった。頭の中で目標を意識するだけの状態と比べ、個々の活動に意義を見いだしながら取り組むことができたことと推察する。スピーキング活動よりもライティング活動において、また英語に苦手意識をもつ生徒が、より前向きな姿勢で取り組むことができているようにも感じられた。

4 ライティング指導について

2時限目の授業において生徒の取組を観察する中で、あるペアに気になる様子が見られた。ペアのうち一人は英語が得意であり、他の生徒の答案を読んで改善点を指摘することができる生徒である。もう一人は学習に真面目に取り組んでいるが、英語を得意とはしていない生徒である。

記入したパラグラフを交換して読んだ後、口頭でのフィードバックをするよう生徒に伝えたところ、前者は後者に対して積極的にアドバイスを提示したが、一方で後者は前者からアドバイスを受けたことをどこか嫌に感じていた様子で、アドバイスを聞く前後で意欲が低下している様子が見て取れた。

自らに不足する部分を他者から学ぶ活動の一つとして、本校ではこのように相互にチェックをすることがよくあるが、生徒に期待することとは逆の効果が生じていることが確認された。このことについて、本研究の協議会にて他の研究員に伝えたところ、どこに注目して読んでもらいたいかを各自が明確にした上で、より多い人数で交換して読ませるとよい、という助言を受け取った。

その方法を要約文の作成にて実践したところ、生徒の反応は良好であった。書き手が提案した内容は、「文法は正しく使えているか?」「筋が通った主張になっているか?」という全体に関わるものから、「このつなぎ言葉は機能しているか?」「最後のまとめ方はこれでよいか?」のように局所的なものに至るまで、さまざまであった。反応が良好であった理由としては、①1対1ではなく助言・指摘する人物が複数名いる、②どの点に絞って読めばよいかが可視化されている、③誰も困りごとがあることが分かる、の3点が考えられる。②についてはターゲットとする文法事項やライティングスキルに応じ、授業者からどの点に注目するかを指定するなど、汎用性をもたせることが可能になると思われる。また、ある生徒はパフォーマンステストのコメント欄に「他の生徒の表

現なども知ることができてとてもよかったので、そのような時間を増やしてほしい」と書いており、ここにも生徒の「学びに向かう力」の高まりを見て取ることができる。

なお、資料3に示すワークシートには、このやり取りを行うための欄を新規に設けている。

5 振り返りシートに見られる生徒の変容について

振り返りシートの記載内容（本実践の対象クラス及び対象でない別の1クラス）を、記載の節目ごとに、テキストマイニングを利用して分析した。そのツールとして、株式会社ユーザーローカルの提供する「AIテキストマイニング」(<https://textmining.userlocal.jp/>)を使用した。

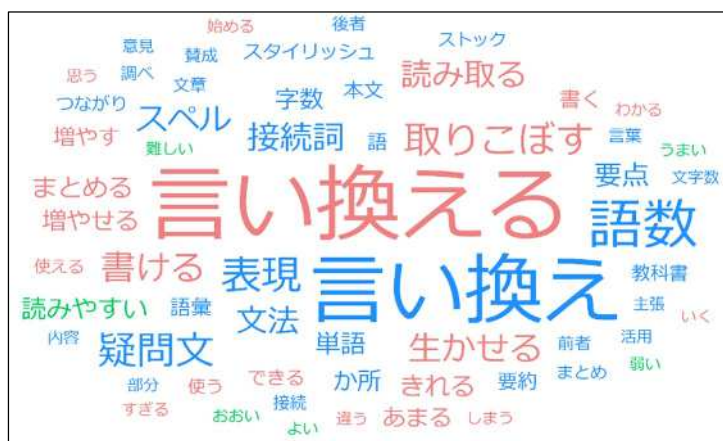
分析結果の図中の文字の大きさは、「単語の頻出度」と「単語がどれだけ特徴的である（一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する）か」に基づく。

図1で“leap”とあるのは本校で採用している英単語集の名称であり、そこに掲載されている単語が使用できるようになりたいという感想が見られた。また「時制」「関係代名詞」「接続詞」「冠詞」「文法的」とあることから、文法事項に留意したライティングを行おうとする意識が読み取れるほか、「瞬時」や「言い換え」というワードから、より高い段階でのスピーキング及びライティングを目指す様子が見える。また「臨む」というワードは「接続詞は復習して臨んだのでうまく使えた」というコメントによるもので、先々の言語活動に向けて自らの課題を明確にし、克服しようとする生徒の存在が見える。



【図1 1・2時限目の言語活動における振り返りコメントの分析結果】

図2では、要約文の作成におけるパラフレーズの必要性について授業内で言及したこともあり、「言い換える」「言い換え」が高いスコアとなった。「取りこぼす」「まとめる」といった要素についても、今後克服したいという意欲を読み取ることができる。また、一般的なライティングにも通じる「読みやすい」「(語数を)増やす」という視点が、1・2時限目と比べてより顕著に表れている点も特筆すべき点である。



【図2 要約文の作成における振り返りコメントの分析結果】

図3では、「主張」「要点」「根拠」「反駁」といったディベート関連の語が多く見られた。「間延び」「コンパクト

6 パフォーマンステストにみられる生徒の変容について

パフォーマンステストの実施（資料4）に際しても、振り返りシートと同様に、あらかじめパフォーマンステストへの目標を記入する活動を行った。また、パフォーマンステスト（資料5）後にはその目標に対する自己評価を記入する時間を設けた。表1は、生徒がパフォーマンステスト前に記入した目標と、同一の生徒による振り返りシートへの記入内容を三人分、左右に並べたものである。

【表1 同一の生徒による、振り返りシートへの記入内容とパフォーマンステストにおける目標】

振り返りシート	パフォーマンステスト
文章全体の流れを意識して書けるようになった	つなぎの言葉を意識して読みやすい文章にする
自分の言葉であまり書けなかった	できるだけ自分の言葉でわかりやすく、読みやすく記述する
要素の取りこぼしもなかった	二つの立場どちらかに偏ることなく要約する

ここで左右に並べた記述には、関連性を見て取ることができる。この関連性は、生徒に提示したテストの評価規準とそれまでの授業を通して生徒に身に付ける力が一致していることに起因している可能性がある。しかし、評価規準は幾つかの観点に及んでおり、生徒が掲げる目標が振り返りシートの内容と合致するのは、生徒が授業を通して学んだことを事後に生かそうとしているからこそだと考える。

7 まとめ

日々の授業でポートフォリオ形式のシートに振り返りを記入させる授業形態は、学びを可視化することができるという点で、学習に取り組み続ける生徒と、彼らを観察する授業者の双方にとって効果的であることを証明することができた。しかしながら、生徒の学びは短期的なスパンのみならず、中・長期的なスパンにも及ぶものであるため、このような取組を今後も継続させることが求められる。また、振り返りシート等に記載された内容、すなわち生徒が記述した文章のみで評価を行うことはできない。授業の内外における「学びに向かう力」を客観的に評価する方法について、更に研究を深めたい。

8 参考文献

- ・ *Vision Quest English Logic and Expression II Ace*. 啓林館. 2022
- ・ 教材の公開【教員向け】. 名古屋市立向陽高等学校.
https://www.nagoya-c.ed.jp/school/koyo-h/h_kyouzai.html
- ・ A I テキストマイニング. 株式会社ユーザーローカル.
<https://textmining.userlocal.jp/>

振り返りシート

Reflection Sheet (Logic & Expression)**単元の目標**

異なる二つの立場について述べた文章を要約した上で、自分の考えを伝えることができる。

取組の記録

◆ワークシート(1) (月 日、 月 日) ※達成度 a:十分満足 b:概ね満足 c:努力必要

活動内容	自分の目標	達成度
①与えられた質問に関するペアトーク		a b c
②活動内容に関するライティング 60 語		a b c
振り返りコメント (できたこと・できなかったこと・今後に向けて)		

◆ワークシート(2) (月 日、 月 日)

活動内容	自分の目標	達成度
文章の要約 (まず短文、最終的に 60 語)		a b c
振り返りコメント (できたこと・できなかったこと・今後に向けて)		

◆ワークシート(3) (月 日)

活動内容	自分の目標	達成度
①マイクロディベート (意見を述べる)		a b c
②トピックに関するライティング 80 語		a b c
振り返りコメント (できたこと・できなかったこと・今後に向けて)		

◆パフォーマンステスト【ライティング】(月 日) 目標・振り返りは別紙に記入

単元全体を振り返ってのコメント (できるようになったこと・できなかったこと・今後の目標など)

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

Reflection Sheet

◆ワークシート (1)	実施日:	月 日	&	月 日
活動内容	自分の目標			達成度abc
①与えられた質問に関するペアトーク				
②活動内容に関するライティング60語				
振り返りコメント(できたこと・できなかったこと・今後に向けて)				

◆ワークシート (2)	実施日:	月 日	&	月 日
活動内容	自分の目標			達成度abc
文章の要約(まず短文、最終的に60語)				
振り返りコメント(できたこと・できなかったこと・今後に向けて)				

◆ワークシート (3)	実施日:	月 日		
活動内容	自分の目標			達成度abc
①マイクロディベート(意見を述べる)				
②トピックに関するライティング80語				
振り返りコメント(できたこと・できなかったこと・今後に向けて)				

単元全体を振り返ってのコメント(できるようになったこと・できなかったこと・今後の目標など)				

パフォーマンステストの予告

Logic & Expression II パフォーマンステスト (Writing) の予告

Lesson の一連の活動の総括として、次のような条件で文章を書いてもらいます。

- ・トピック（英語に関連したもの）に対し、異なる二つの主張を述べた文章を要約する。
- ・自分はどちらの主張に賛成するか、理由と共に書く。
- ・語数は120-150語程度、時間は30分間とする。

評価基準は以下のとおりです。

○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現が適切に使用されている。	三つの条件を満たしている。	三つの条件を満たした上で、授業で学んだことを生かし、読み手が理解しやすい文章を書こうとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない語彙や表現を使って書いて伝えている。	三つの条件のうち、二つを満たしている。	三つの条件を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：異なる二つの主張を、既習の言語材料を効果的に用いて要約している。

条件2：可能な限り、自分の言葉を用いて要約している。

条件3：自分が賛成する主張について、本文に示されたもの以外の理由を具体的に述べている。

これまでの学習の取組や、これらの評価基準を参考に、各自で最初に目標を立ててからテストに臨み、最後に自己評価を行ってもらいます。目標を考えておいてください。

あなたのクラスのパフォーマンステストの実施予定日は 月 日 () です。

パフォーマンステスト

Logic & Expression II - Performance Test [Writing] -

まず、次の問題文を読みなさい。但し、指示があるまでは2ページ目以降に進まないこと。

問題：

2ページ目に示す文章は、“Starting foreign language education at a very early age is a good idea.” という論題に対する、異なる二つの主張を述べたものである。この文章を要約した上で、自分はどちらの主張に賛成するか、理由とともに書きなさい。条件は以下のとおりとする。

- ・語数は120-150語程度、時間は30分間とする。
- ・はじめに要約を、その後にどちらの主張に賛成するかとその理由を書く。段落分けはしない。

次に、以下の評価基準に目を通しなさい。

○採点の基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現が適切に使用されている。	三つの条件を満たしている。	三つの条件を満たした上で、授業で学んだことを生かし、読み手が理解しやすい文章を書こうとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない語彙や表現を使って書いて伝えている。	三つの条件のうち、二つを満たしている。	三つの条件を満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

「十分満足できる」状況と判断されるもの：a

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：b

「努力を要する」状況と判断されるもの：c

○「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：異なる二つの主張を、既習の言語材料を効果的に用いて要約している。

条件2：可能な限り、自分の言葉を用いて要約している。

条件3：自分が賛成する主張について、本文に示されたもの以外の理由を具体的に述べている。

評価基準を理解したところで、このテストにおける自分の目標を記しなさい。最後に自己評価を行います。

授業者の指示で、次のページを開いて問題に取り組みなさい。 →

問題（1ページ目と同じものを再度提示します）：

2ページ目に示す文章は、“Starting foreign language education at a very early age is a good idea.” という論題に対する、異なる二つの主張を述べたものである。この文章を要約した上で、自分はどちらの主張に賛成するか、理由とともに書きなさい。条件は以下のとおりとする。

- ・語数は120-150語程度、時間は30分間とする。
- ・始めに要約を、その後どちらの主張に賛成するかとその理由を書く。段落分けはしない。

文章 (237 words)

ヒント

意見を書く際には、以下の語句を用いるとよい。

the former 「前者」 もしくは the former argument 「前者の主張」

the latter 「後者」 もしくは the latter argument 「後者の主張」

右ページに解答を書きなさい。 →

自己評価と振り返り ※この記入内容は、ライティングの評価には影響しません。

(1) 最初に記した自分の目標について、その達成度を a (十分満足) b (概ね満足) c (努力必要) の 3段階で評価しなさい。下のいずれかに○をつけなさい。

a b c

(2) 1の自己評価に関するコメントを書きなさい。

(3) このテストを終えて、今後の学習に対するコメントを書きなさい。